

NHK交響楽団などで活躍するバイオリン奏者から産婦人科医へ

「音楽を患者さんの治療に生かしてこくことが元プロ音楽家の私の使命だと思っています」

異色の医師

プロ口の音楽家から医師に転身した異色の経歴をもつ。慶大3年時、ユネスコ傘下の国際組織「ジュネス（青少年音楽連合）」の世界メンバーに選出され、バイオリン奏者として世界各国で演奏した。麻生太郎元首相がクレー射撃で出場したモントリオール五輪の開会式でも演奏した。「周りは世界中から集められた一流の音大生ばかり、その中でバイオリンの首席奏者に選抜された。外交官に憧れ、大学では外交専攻ゼミに所属していましたが、国同士が争っていても、音楽ではひとつになれる。それを目の当たりにしたこ

広尾かなもりクリニック 院長 金森圭司



▼かなもり・けいじ 慶応義塾大学法学部卒業後、東京芸術大学に進学。プロ音楽家として活動後、30歳で東京大学医学部に入學、1990年卒。東京大学医学部付属病院で研修医、大学院博士課程、関連病院勤務を経て2010年クリニック開業。

とは大きな衝撃でした。バイオリン教室に通い出したのは4歳の時。高校では合唱部に所属し指揮者も務めた。慶大ではオーケストラと男声合唱

と団の両方に入部。世界ジュネスの経験から、もしかしたら、音大に受かるかも。と、東京芸大の入学試験は腕試しのつもりで受けたという。

「音楽の道へ進むことできるし、一生続けられは、当然、親や周囲は猛りますから」
反対でした。でも、芸大 医療への関心は、当在学中にNHK交響楽団時、東京女子医大や慶大などに出演する機会に恵 医学部など医学生オケを 指導していた影響も大き ようになり、それでもう 自活できました」
入学後、医学生オケ出身 者を集めて「全日本医家 管弦楽団」を設立し、常 任指揮者を10年間務め ています」
「産婦人科医になったの は、手術もできて、胎児 音楽家の私の使命だと思 っています」
今年3月、世界16カ国 から、医師で音楽家、1 00人が集まり、福島・ いわき市(21日)と東京 ・池袋(23日)で東日本 大震災復興支援コンサ一

待機で夜間休日も拘束された。それでも時間をつくっては、音楽活動と両立してきた。08年には、同じ医師で音楽家の仲間4人で弦楽四重奏団「フイロムジコ セラポイテ

「た」だし、多忙を極め、勤務医時代は、昼間「オーケストラ」で、金森院長はコンサートマスターを務める。